The 17th National Ambulance-crew Symposium

第17回
全国救急隊員シンポジウム

プログラム・抄録集

と　き　平成21年
1月29日(木)・30日(金)

ところ　グランメッセ熊本
熊本県上益城郡益城町福富1010

主　催　熊本市消防局
財団法人救急振興財団

メインテーマ

集え・救急現場の声！
～救急隊員の未来像を熊本から～

後　援　総務省消防庁、厚生労働省、熊本県、
社団法人日本医師会、
有限責任中間法人日本救急医学会、
有限責任中間法人日本臨床救急医学会、
全国消防長会

協　力　財団法人全国市町村振興協会、
社団法人熊本県医師会、社団法人熊本市医師会

The 17th National Ambulance-crew Symposium

第17回
全国救急隊員シンポジウム

プログラム・抄録集

メイン
テーマ

集え・救急現場の声！
～救急隊員の未来像を熊本から～

と　き　平成21年
1月29日(木)・30日(金)

ところ　**グランメッセ熊本**
熊本県上益城郡益城町福富1010

主　催　熊本市消防局、財団法人救急振興財団

後　援　総務省消防庁、厚生労働省、熊本県、
社団法人日本医師会、有限責任中間法人日本救急医学会、
有限責任中間法人日本臨床救急医学会、全国消防長会

協　力　財団法人全国市町村振興協会、
社団法人熊本県医師会、社団法人熊本市医師会

第17回 全国救急隊員シンポジウム

テーマ宣言

メインテーマ

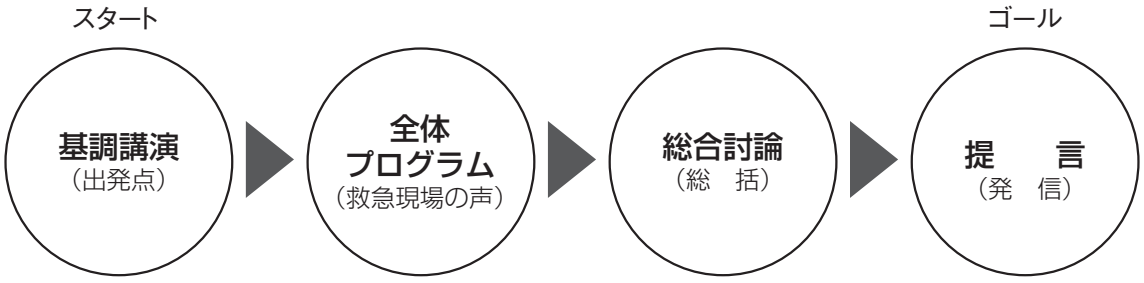
集え・救急現場の声！
～救急隊員の未来像を熊本から～

基 本 構 想

第17回全国救急隊員シンポジウムは、「集え·救急現場の声 救急隊員の未来像を熊本から」をメインテーマに、救急医療に携わる専門家のあらゆる声を集結させ、目指すべき救急隊員の未来像とは何かを参加者全員で討議し、救急隊員及び消防組織が今後取り組むべき方向性を「提言」としてまとめ全国へ発信します。

プログラム構成

「救急隊員の未来像」をテーマとして、参加者全員の声を基調にプログラムを進行します



※「提言」は専用ホームページ
及び議事録等で公開します。

今回の取組み

1. 最終日に総合討論を実施し「提言」としてのキーワードを探ります。
2. 一般応募演題から「優秀演題」及び「優秀ポスター」を採択し公表します。
3. ポスターセッションの充実を図ります。

第17回 全国救急隊員シンポジウム
開会式次第

日　時：平成21年1月29日㈭　9時50分から10時30分

場　所：第1会場（D ホール）

（敬称略）

1. 主催者挨拶

（1）熊本市長	幸山　政史
（2）財団法人救急振興財団理事長	黒沢　　宥

2. 来賓紹介

⑴ 総務省消防庁長官	岡本　　保
⑵ 厚生労働省医政局長	外口　　崇
⑶ 熊本県知事	蒲島　郁夫
⑷ 日本救急医学会代表理事	山本　保博
⑸ 日本臨床救急医学会代表理事	有賀　　徹
⑹ 全国消防長会会長	小林　輝幸
⑺ 財団法人全国市町村振興協会理事長	谷合　靖夫
⑻ 社団法人熊本県医師会会長	北野　邦俊
⑼ 社団法人熊本市医師会会長	福田　　稠

3. 来賓挨拶

総務省消防庁長官	岡本　　保
熊本県知事	蒲島　郁夫
日本救急医学会代表理事	山本　保博

4. 運営委員長報告

杏林大学医学部教授	島崎　修次

第17回 全国救急隊員シンポジウム
フィナーレ次第

日　時：平成21年1月30日㊎　12時40分から13時00分

場　所：第1会場（D ホール）

（敬称略）

1. 優秀演題・優秀ポスター発表

運営委員長　島崎　修次

2. シンポジウム総括

運営委員長　島崎　修次

1. 開催地挨拶

熊本市消防局長　神原　節生

2. 次期開催地挨拶

金沢市消防局長　二俣　孝司

3. 閉　会

基調講演

救急現場の声と救急隊員の未来像
―医療現場の視点から―

昭和大学医学部教授・救急医学講座主任
有賀　　徹

救急隊員の未来を語るのであれば、まずは救急医療の未来とその中での未来像を考える必要があろう。しかも、10年後も、100年後も未来であることには違いないので、この未来像は大変な幅を持つことになる。しかし、この基調講演では現場の声や視点という、正に今問題になっている現実を直視しようとする意図がある。そこで、まずは救急医療の現場における、言わば“窮状”を整理し、その中で専門職としての救急隊員の近未来的な役割などについて言及したい。

我が国の一日の救急患者数は概ね8万数千人である。救急車での搬送は9,700人で、内3,000人が帰宅、3,700人が入院となっている。後者と同人数が自力で来院しての入院なので、1日の救急入院患者数は7,400人である。地域の医療では「入院医療を旨とする」病院からみれば、入院を要さなかった外来のみの患者が実に9割をも占めている。救急隊からみれば、入院を要さなかった患者搬送は6割を占め、搬送して入院となった患者数と実に同じ人数が救急隊とは無関係に救急入院となっている。

全国の救急車搬送は、平成8年に324万7千人で、平成18年には489万3千人となっている。最近の10年間で搬送人員は1.5倍に、また増加の多くが高齢者による。しかも、救急搬送という需要の増大にも関わらず、供給は、例えば東京都において平成10年度当初に救急告示医療機関数が411件であったものが、平成20年同にて335件となり、この10年間に19%の減少である。廃院に至らずとも、診療科目の閉鎖も多々ある。

従って、救急患者受け入れの照会回数について、例えば産科・周産期での搬送事例で4回以上を要した件数（割合）は、全国で平成16年の255件（1.9%）が平成19年に1084件（4.8%）へと増加し、また東京では搬送先選定に30分以上、または照会に5回以上を要した事例が、平成19年度第1～第3四半期にそれぞれ8,300件（5.6%、全搬送数に対する割合、以下同じ）、8,800件（5.7%）、10,500件（6.7%）とやはり増加している。要請に応えられなかった理由について、総務省消防庁による平成18年中の集計によれば、二次救急医療機関においては処置困難が39%で理由の第一であった。手術中・他の患者対応中とベッド満床とが16%ずつでそれに次いだ。三次施設においてはベッド満床と手術中･他の患者対応中とが各々38%、35%であった。以上より、需要と供給に不均衡がある、救急医療からリハビリテーションへなどの患者の流れに渋滞があるなどが示唆される。また、処置困難については、万が一に訴訟などの懸念

を医療側が抱いている可能性を否めない。結局のところ、医療費不支払い患者など社会的な困難が救急医療の現場に“吹き溜まっている”かのようである。

さて、救急隊員が専門職であるということから、専門職の特徴を挙げると、まずは資格を必要とし、自主的な規律を有する。特殊な領域についての判断が仕事の内容とされ、社会からの信頼を受けて高度の裁量が委ねられている。社会的な地位が高いなどがある。救急隊員にとってここに挙げたいくつかが自らの日常においてどのようかは一定の範囲で理解できるはずである。例えば、前半で述べた窮状の多くが「患者の数」による。そこで、119番コールにおいて試みられる患者の選別（トリアージ）、救急現場における搬送トリアージなどは、いずれ大きな裁量によって発展する可能性がある。より質の高い搬送へと搬送業務そのものを向上させることを専門職たる救急隊員らが達成するよう期待されているというわけである。

そしてまた、規律の中には自らのキャリアアップを自らが行うことも含まれている。各種の研究会や学会への参加なども自らの領域についての判断を強化し、裁量の質を高め、幅を広げることに役立つはずである。それこそ専門職たる職業倫理とも言うべきであろう。そのようであれば、救急隊員らが現在の業務内容においてのみならず、それを越えて例えば、地域における救急医療についての住民教育ないし啓発という役割を演じることもできよう。社会からの信頼が高まれば、救急医療における需要と供給の不均衡や救急医療の現場に吹き溜まっているかのごとき社会的な困難などについても専門職からの言及が解決への一助となる未来も充分に拓けるように思われる。

そのような未来に向けての道程は正に一歩々々進むしかないと考える。この救急隊シンポジウムへの参加もそのような地道な一歩であるに違いない。専門職としての誇りと高い士気をもって学び、実践することこそ救急隊員の未来像への鍵である。

総合討論

救急隊員の未来像

総合アドバイザー：昭和大学医学部教授・救急医学講座主任　有賀　徹

司　　会：東海大学医学部専門診療学系救命救急医学准教授　山本五十年

パネリスト：市立堺病院副院長　横田順一朗
杏林大学総合政策学部教授　橋本雄太郎
救急救命九州研修所教授　畑中　哲生
総務省消防庁救急企画室長　開出　英之
札幌市消防局警防部救急課長　佐々木　靖
熊本市消防局救急係長　西岡　和男

フロアーアドバイザー：一般発表　座長　大木島　実　田村　伸也
藤田　孝行　花田　利男
山野　昭範　札本　豊明
前田　友春　橋本　健治
ポスターセッション　司会　亀山　俊一　永野　義武
泉　　清一　中田　純男

OVER VIEW

国民の救命率向上のため救急高度化を目指し、平成３年救急救命士制度の創設と共にプレホスピタルケアの高度化は産声をあげ、救急業務は医療現場に学びつつ急速に変貌してきました。また、社会では少子高齢化が進むにつれ、国民生活における救急業務に対する期待は、今後ますます大きくなることが予測されます。

このような背景を踏まえ、シンポジウムの総括である「総合討論」では、基調講演からスタートしたメインテーマである「救急隊員の未来像」に焦点を絞り、総合アドバイザー及び各パネリストの視点から、プレホスピタルケアのこれまでの歩みと、救急隊員と消防組織が取り組むべき方向性について総合討論を行い、これから求められる「救急隊員の未来像」について「提言」となるキーワードを探ります。

また、「総合討論」で討議されたキーワードは、シンポジウム終了後、要約した言葉にまとめ、「提言」として全国へ発信します。

※「提言」は専用ホームページ及び議事録等で公開します。

インフォメーション

1 受付

（1）1月29日（木）・30日（金）ともに、8時30分から開場・受付を開始します。

（2）受付は、1階メインエントランスです。

（3）会場受付で「参加証」をお受け取りください。（参加費は無料です）

（4）参加証に付いています「参加券（抄録引き換え券）」と引き換えに、プログラム抄録集とアンケート用紙をお渡しいたしますので、参加券に必要事項をお書きいただき、抄録集配布カウンターにお持ちください。

2 参加証

受付でお渡しする参加証（ネームカード）は、会場内では必ず着用願います。

3 アンケート

受付でお渡しするアンケート用紙につきましては、今後のシンポジウム運営上極めて重要な情報となりますので、必ず必要事項をご記入の上、お手数ですが、1階出口（エントランス）に設置された「アンケート回収箱」に投函をお願いします。

4 弁当販売・飲食場所（会場周辺には飲食店がございません）

1月29日（木）11時20分から、各会場入り口で弁当を販売いたします。
1月30日（金）は、軽食販売を予定しております。
※昼食は、ランチタイムセミナー会場及び展示会場休憩コーナーでお取りください。

5 消防長控室

ご参会の消防長用の控室を2階にご用意しておりますので、自由にご利用ください。

6 館内呼び出し

個人の呼び出しについては原則としてお受けできませんが、職務上の緊急連絡等については1階総合案内にご相談ください。

7 注意事項

（1）会場施設内は禁煙となっています。屋外の指定エリア喫煙所でお願い致します。

（2）各会場内での携帯電話の使用はご遠慮ください。
会場内では、電源をお切りいただくか、マナーモードに設定をお願いします。

（3）お手元のゴミは、お近くのゴミ箱へ処分願います。

参加者の皆様へ

1 質疑・討議

各セッションでは、フロアーの参加者の皆様からも意見や質問、拍手による同意の意思表示など、皆さんのご意見を積極的に議論のテーブルに上げていただきたいと考えております。実りの多い討議となりますよう積極的なご発言をお願いいたします。

※発言の意思表示は、挙手の上、所定のマイクの前にお立ちいただき、座長の了解を得た後に、所属と氏名を明らかにしてご発言ください。

2 ジョイントシート

各セッションの会場入り口にジョイントシートをご用意しております。ジョイントシートは、セッションに対する皆さんのご意見や評価を記入いただくものですので、是非ジョイントシートをお持ちになってセッションにご参加ください。

※記入後は会場入口の BOX へ投函ください。

3 ビデオ・動画・写真撮影

参加者の皆様の迷惑にならないよう、配慮ください。

※演者の希望や内容により撮影をお断りすることもありますのでご了承ください。

（1）三脚を使用したビデオ・動画の撮影は、指定された場所でお願いいたします。

（2）会場内でのフラッシュを用いた撮影は禁止いたします。

（3）その他、撮影に関するご相談は、各会場の係員にお申し出ください。

4 ポスターセッション

（1）発表のポスターは、シンポジウム全日程・終日掲示します。

（2）指定された時間以外でも、自由に発表や情報交換を行うことができます。

（3）ポスター上部には、プログラム指定の時間の他に、演者が自主的に発表を行う時間を発表者自身で掲示する場合がありますので、ご参照ください。

（4）各ポスターには、発表者へのご意見や連絡手段として、専用付箋紙が設けてありますので、ポスター横に張っていただくなど、自由にご活用ください。

5 議事録

シンポジウムの内容は、「第 17 回全国救急隊員シンポジウム議事録」として編集し、後日、各消防本部あてに送付いたします。

出演者の皆様へ

ご発表の当日手続き等について

1 発表の受付

●講演・一般発表等に出演の方

スライド受付

① 参加受付後に**1階「PC プレビューコーナー」**で、スライドの最終動作確認を行ってください。

② 事前提出データに変更があった場合には、新しいデータを登録した後にプレビューを行ってください。

③ 事前提出いただいたデータをご返却いたします。

●ポスターセッション発表者の方

参加受付後に**1階「ポスター受付」**までお越し下さい。事前提出していただいた記録メディアを係員がお返しいたします。

2 セッション進行打合せ

① セッション開始1時間前に、出演者間での打合せを行います。指定された時間に、発表セッション会場打合せ室へお越しください。打合せ室場所は会場図面をご参照ください。

② 打合せ会場へは、共同演者・発表指導者の皆さんもお入りいただけますが、会場スペースの都合もありますので会場係員にご相談ください。

3 出演に際して

（1）発表前及び発表後は、係員が誘導いたしますので、係員の指示に従ってください。

（2）打合せ室では、係員が出演にあたっての会場説明・注意事項等を説明いたします。

（3）発表時間は、他の発表等に影響を与えないよう時間を厳守してください。
※大幅に発表時間を超える場合には、座長が指示をすることがありますのでご了承ください。

（4）不明な点がございましたら打合せ室係員にお尋ねください。

4 ポスターセッションのご発表について

ポスターセッションは、プログラムに指定された時間以外でも、全日程自由に発表や参加者との情報交換が行えるという特徴を活かすための設定をしておりますので、積極的にご発表ください。

① ポスターは、参加者の通りがもっとも多い場所に全日程・終日掲示します。

② 指定された時間以外でも、自由に発表や情報交換を行うことができます。

③ プログラム指定以外の時間の発表をされる場合、参加者への開催時間告知は、各ポスター上部の発表時間掲示場所に、ご自身で掲示することができますのでご活用ください。

④ ご発表のポスターには、ポスター周囲に演者の皆様がいらっしゃらない時間でも、参加者からの意見や連絡先などを伝達できるよう、専用付箋紙を設けております。

5 昼食について

出演者の方には、受付時に昼食引換券をお渡ししますので、2階レストラン「七彩」で昼食引換券を提出してください。（出演者の皆様のみ2階レストラン「七彩」もご利用いただけます。）

6 意見交換会について

（1）日　時：平成21年1月29日（木）　18時30分より

（2）場　所：ホテル日航熊本　5階「阿蘇」

- 意見交換会会場ご入場の際には、参加証（ネームカード）を着用ください。
- 参加証（ネームカード）は、会が終了するまで着用願います。

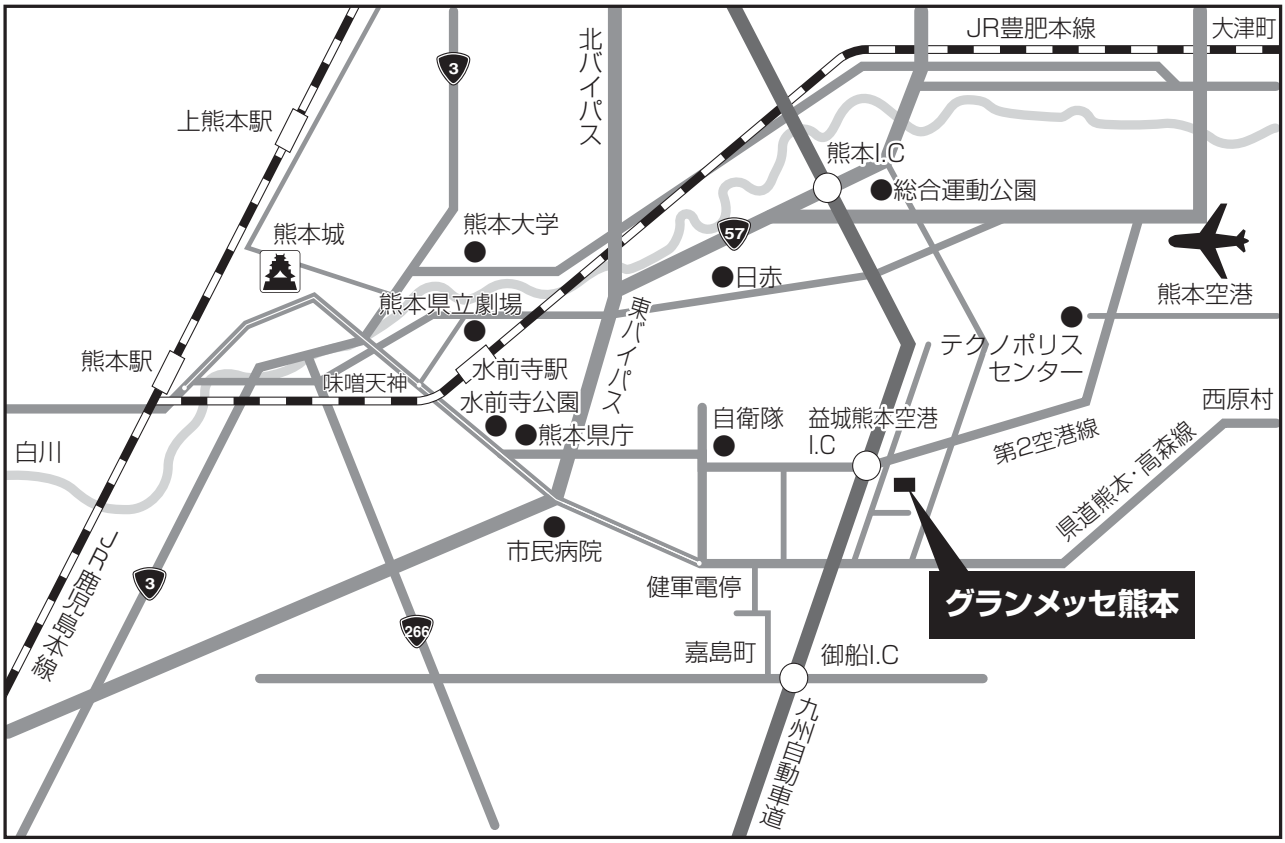
（3）意見交換会専用シャトルバス（グランメッセ熊本からホテル日航熊本）

- 17時00分にグランメッセ熊本北エントランス前へお越し下さい。
- ご乗車の際にはネームカードの提示をお願いいたします。

7 「第17回全国救急隊員シンポジウム」議事録について

事前提出データは事務局にてバックアップさせていただき、「第17回全国救急隊員シンポジウム議事録」に掲載いたします。

交通のご案内



熊本駅・交通センターからバス利用の方

■シンポジウムシャトルバス

29日と30日はグランメッセ行きのシンポジウムシャトルバス（有料）を運行

※「グランメッセ内エントランス前」下車

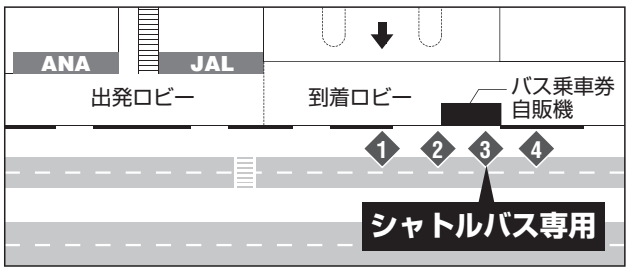
路線図は112頁に掲載。

熊本空港から

■シンポジウムシャトルバス

29日と30日はグランメッセ行きの臨時定期バスを運行（バス停3番）

※「グランメッセ内エントランス前」下車



■タクシー利用

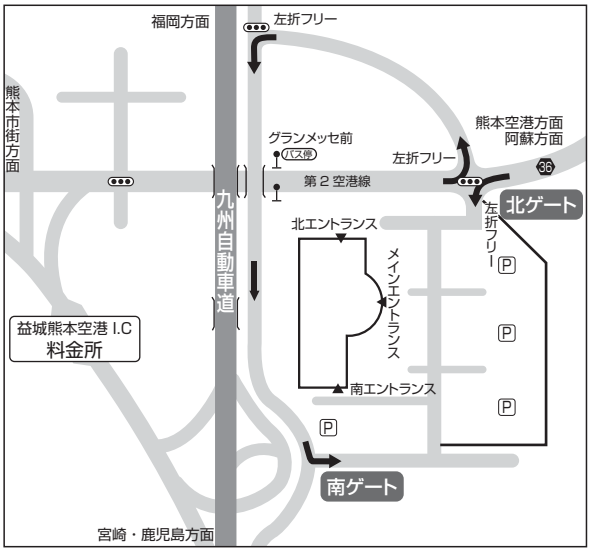
阿蘇くまもと空港から、2,400～3,000円（約15分）

マイカー利用

■高速道路利用

九州自動車道「益城熊本空港 IC」下車、料金所通過後、「阿蘇方面」→「グランメッセ熊本誘導標識」左折→「南ゲート」進入で約5分

※2,200台収容無料駐車場完備



1F
エレベーター
エスカレーター
男子トイレ
女子トイレ
障害者用トイレ
自動販売機
電　話
喫煙スペース
弁当販売
南エントランス
2Fオブザーバー控室へ
第1会場
(Dゾーン)
打合・控室
2F
多目的テラス
第5会場（ポスター）
ガレリア
売店
物産販売
宅急便
軽食販売台
ステージ
ラーメン
自由発表
2F
ポスター第2会場
打合・控室へ
第1会場
Dゾーン
企業展示
休憩コーナー
第2会場
Bゾーン
クローク
第3会場
Aゾーン
シャトルバス(一般用)乗り場
メインエントランス
抄録集配布カウンター
受付
記名台
プログラム
関係者受付
記名台
来賓受付
総合案内
バスチケット
販売
コインFAX・
コピー
ツアーデスク
PCプレビュー
PC・ポスター受付
2F
第4会場
コンベンションホール
第3会場
(Aゾーン)
打合・控室
2Fデモ要員控室へ
コイン
ロッカー
多目的ホール
ホワイエ
会議室ホワイエ
映写室
打合・控室
第4会場
来賓関係
専用受付
来賓控室
委員・幹事控室
事務局本部
研修所関係
控室
県全国消防長
控室
倉庫
バルコニー

第1会場 1F（Dゾーン） 収容人員 1700人

基調講演 10：40～12：00

司　会：東海大学医学部専門診療学系救命救急医学准教授　山本 五十年

「救急現場の声と救急隊員の未来像」－医療現場の視点から－

講　師：昭和大学医学部教授・救急医学講座主任　有賀　徹

※抄録は5頁へ

ランチタイムセミナーⅠ 12：20～13：20

司　会：長崎市消防局警防課救急救助主任　林田　哲

「総務省消防庁の取組みと政策課題」

講　師：総務省消防庁救急企画室長　開出 英之

シンポジウムⅠ 13：30～15：00

座　長：東京医科大学医学部救急医学講座主任教授　行岡 哲男
東京消防庁救急部副参事　西原 健治

「救急医療体制の充実・強化」－消防機関と医療機関の連携－

アドバイザー：総務省消防庁救急企画室長　開出 英之
日本医科大学高度救命救急センター助手（旧厚生労働省医政局）　田邉 晴山

シンポジスト：奈良市消防局救急救助課救急係長　東　栄次
阿蘇広域行政事務組合消防本部救急隊長　田尻 浩昭
平塚市消防本部消防長　出縄 高昭
大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター特任助教　吉矢 和久
独立行政法人国立病院機構長崎医療センター救命救急センター長　髙山 隼人

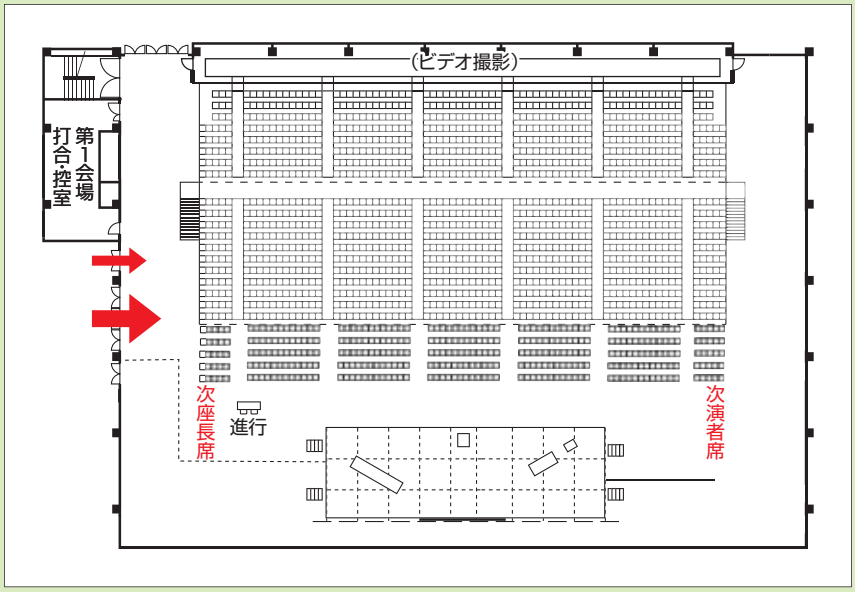
シンポジウムⅡ 15：15～16：45

座　長：仙台市消防局警防部救急課長　小野　清

「岩手・宮城内陸地震報告」－組織間の連携－

アドバイザー：杏林大学医学部救急医学主任教授　山口　芳裕

シンポジスト：奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部消防救急課長　小野寺 俊男
栗原市消防本部警防課長　金野　平
仙台市消防局警防部警防課長　若生 勝吉
宮城県総務部消防課副参事兼課長補佐（総括担当）兼
宮城県防災ヘリコプター管理事務所所長　堀籠 謙一
栗原市立栗原中央病院医員　菅野　武
山形県立中央病院救命救急センター診療部長　森野 一真



総務省消防庁の取組みと政策課題

総務省消防庁救急企画室　開出　英之

救急業務は、国民の生命・身体を事故や災害等から守り、安心・安全な社会を確保するものであり、我が国においては、昭和38年に法制化されて以降、国民にとって必要不可欠な行政サービスとして定着している。現在、少子高齢化社会の進展や住民意識の変化及び核家族化等に伴って救急需要が拡大しており、平成19年中の救急出場件数は約529万件で、平成9年からの10年間で50%以上増加している。一方で全国の救急隊数は、平成10年からの10年間で約8%にとどまっている。このため、緊急性のある傷病者の搬送には、迅速かつ的確な対応が必要とされているにもかかわらず、現場到着時間は平成9年の平均6.1分に対し、平成19年では7.0分であり、また、現場到着から病院収容までの時間は平成9年の平均19.9分に比べ平成19年では26.4分であり、いずれも遅延傾向となっている。特に心肺機能停止状態の傷病者の発生など一刻を争う局面においては、今後、地域によっては、救急隊の到着が遅れる可能性があり、深刻な問題となっている。

救急業務において、特に平成3年の救急救命士法成立以来、取り巻く情勢は大きく変化し、救急救命士の行う処置範囲の拡大など、救急業務の高度化について推進が図られてきた。こうした救急業務の高度化を支えてきたのがメディカルコントロール体制であり、消防機関と医療機関との連携によって、① 救急隊が現場からいつでも迅速に医師に指示、指導・助言が要請でき、② 実施した救急活動の医学的判断、処置の適切性について医師による事後検証が行われ、③ 救急救命士の資格取得後の再教育として、医療機関において定期的に病院実習が行われている。メディカルコントロール協議会は、全国的に設置され、救急業務の質的向上に積極的に取り組んでおり、消防庁としては、全国のメディカルコントロール協議会の質の底上げや全国的なメディカルコントロール体制の充実強化を目的として、平成19年5月より、全国メディカルコントロール協議会連絡会を設置し、全国の関係者間での情報共有や意見交換を促進している。現在、総務省消防庁では、より円滑な救急搬送・受入医療体制の構築に向け、消防機関と医療機関との協議の場であるメディカルコントロール協議会の拡充と活用について、メディカルコントロール協議会の法的・行政的な位置づけの強化も含め検討している。

一方、全国各地で救急搬送時の受入医療機関の選定に困難を来す事案が報告されたことから、総務省消防庁では、昨年度、救急搬送における医療機関の受入状況等実態調査を行った。この調査によって、例えば重症以上傷病者搬送において、医療機関に受入れの照会を4回以上行った事案が1万4千件を越え、市域別の状況をみると、首都圏、近畿圏等の大都市周辺部において照会回数が多いことが判明した。このように救急搬送における受入医療機関の選定が、大変厳しい状況にあることを踏まえ、円滑な救急搬送・受入体制を確保するための対策について検討しているところである。

また、救急車の出動を要請すべきかどうかについて、十分な医学的知識に基づく判断を市民に求めることは困難であり、それが軽症と思われる場合であっても、市民が不安を感じ救急車の出動を要請してしまうことがある。このため、消防と医療の一層の連携を図りつつ、救急相談事業について推進していくこととしている。

総務省消防庁としては、この他にも、新型インフルエンザ対策の推進、救急業務におけるトリアージの導入、災害時における消防と医療の連携の推進、救急統計やウツタイン統計の活用等、様々な課題について検討し、関係機関と協力し、今後も救急業務の高度化を推進していく方針である。

シンポジウムⅠ

救急医療体制の充実・強化
― 消防機関と医療機関の連携 ―

座　　長：	東京医科大学医学部救急医学講座主任教授	行岡　哲男
	東京消防庁救急部副参事	西原　健治
アドバイザー：	総務省消防庁救急企画室長	開出　英之
	日本医科大学高度救命救急センター助手（旧厚生労働省医政局）	田邉　晴山
パネリスト：	奈良市消防局救急救助課救急係長	東　　栄次
	阿蘇広域行政事務組合消防本部救急隊長	田尻　浩昭
	平塚市消防本部消防長	出縄　高昭
	大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター特任助教	吉矢　和久
	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター救命救急センター長	髙山　隼人

OVER VIEW

周産期医療などの特定疾患によっては、全国的に救急搬送における医療機関への受入照会回数が多数にわたる事例が発生し、「たらい回し」として報道等に取上げられ社会問題化されています。また、救急搬送受入体制の問題については、医療体制崩壊の一端とされる病院診療科目の縮小・病院の廃止・医師不足など医療機関側の問題が指摘されています。一方、中小の消防本部では、受入体制に支障なく円滑に行なわれている地域もあるものの、地方部においては、救急告示医療機関の減少などを背景に長時間の救急搬送が増加傾向にあるなどの課題を抱えており、消防機関としては、厳しい医療体制においても、重篤な傷病者に対し適切な処置を施し、適切な医療機関へ迅速に搬送することが求められています。

「シンポジウムⅠ」では、このような救急医療体制の現状について、シンポジストからの報告を基に、消防機関･医療機関それぞれの立場から検証し、救急医療体制の充実･強化に向けた環境づくりを少しでも推進するため、消防機関と医療機関との連携強化策について、MC 協議会の役割等も含め検討を深め、消防機関・医療機関双方が取り組むべき対応策の方向性と救急医療体制の未来像を探ります。

SI -1

奈良県における救急体制について

1）奈良市消防局 救急救助課 救急係長、
2）奈良市消防局 救急救助課長
東　　栄次[1)]、野口　隆身[2)]

【現状】奈良県における救急医療告示機関の総数は変化が見られないが、収容までの時間は延長している。その理由のひとつとして受入先選定までの交渉数の増加が顕著である。その中でも特に重症以上、産科・周産期、小児科の受入照会回数はいずれも全国平均と比して高い比率である。

【課題】最適な医療機関に、より迅速に搬送するためには医療機関選定までの時間の短縮が大きな課題であり、そのためには受入システムの整備とともに消防と医療機関との正確な情報の共有が必要である。

【奈良県における救急体制】

通常活動

各医療機関から入力される医療情報をもとに医療機関の選定を実施している。

三次医療機関

現在奈良県においては高度救命救急センターを含み3箇所の救命救急センターが設置されており重症症例に対応している。

産科・周産期

奈良県を北和地区と中南和地区に分割して一次輪番制度が運用開始となっている。またコーディネーター制度が新設され現在、土日及び祝日を中心に対応している。

小児科

奈良県を北和地区と中南和地区に分割して二次輪番制度にて受け入れ態勢が整備されている。

脳卒中

初期治療を担当する医療機関の情報が提供されており、奈良市においては奈良市脳卒中地域連携パスを用いた医療機関の連携が発足し初期治療からリハビリまで一貫したシステムが運用開始となった。

【まとめ】搬送時間短縮に向けて各科ごとのシステムが構築されてきているが常時受入体制とはなっていない。また、更に効率的なシステムとするためには、よりリアルタイムで正確で詳細な医療情報の共有が必要である。

SI -2

地方における救急医療体制の現状（長時間搬送の実態など）、及び課題、取り組みについて

阿蘇広域行政事務組合消防本部 救急隊長
田尻　浩昭

地域にはその地域特有の環境や特性がある。

MC 体制が整備され、その地域の関係各機関がひとつのテーブルで議論できる環境ができたことは、事後検証や隊員教育の面で大きな成果を挙げた。

また、多くの教育プログラムが開発され、全国で通用する共通認識が普及し、救急患者に提供される病院前救急医療や応急処置における地域格差は減少したと思われる。

しかし、その地域だけに存在する、その地域で議論し解決しなくてはならない地域特有の課題が存在することは明らかで、それに対しては自らの力で解決する努力を続けなければならない。

これからの救急隊は今一度自分達の足元を見つめ、何が課題であるかを再認識し、環境や体勢を改善するために何が必要か、何が出来るか、何が優先されるか、今一度考えることが必要だと感じる。

今回は阿蘇の救急活動の実態として、現着までの時間・管外搬送件数・長時間搬送などの時系列データをもとに、地方の救急活動の特徴をピックアップし、救命率向上のために特に力を注いできた応急手当の普及活動や現場到着所要時間の改善、限られた救急医療体制の中で阿蘇地域 MC 協議会がどのような取り組みをしてきたかを紹介し、地域におけるこれからの課題を再確認する。

【構成】

1. 阿蘇地域の救急医療体制（消防救急と医療機関）
2. 地方の特異性（現場到着所要時間・管外搬送率・搬送時間）
3. 特異な背景の中での取り組み
   - 救急業務（応急手当普及活動）
   - 阿蘇 MC 協議会の活動（各部会の活動）
     検証部会、教育部会、プロトコール部会、企画部会、ICLS 部会
   - 阿蘇救急フォーラム
   - 搬送手段の変化（日赤ドクターカーシステム、県防災ヘリ）

SI -3

医療と消防の連携について

平塚市消防本部 消防長
出縄　高昭

今日､全国にメディカルコントロール体制が構築され、消防機関と医療機関との協働関係が以前にも増して重要になっている。

平塚市が所属する湘南地区では、昭和62年に東海大学病院が開講した第1回救急隊員意見交換会・救急セミナー以降、平成6年度から毎月開催するようになった生涯教育講座救急セミナーの運営に消防職員が積極的に参画した。小職は、救急隊長としてセミナーの運営委員長を務め、消防職員・医療職員相互の顔の見える関係創りに努力した。平成9年には、救急隊員の資質の向上を目的とした湘南救急活動研究協議会が17消防本部で設立され、平成15年に湘南地区メディカルコントロール協議会に発展的に移行し、諸種の事業が円滑に推進されている。

こうした東海大学病院とともに構築した地域基盤を基礎として、平塚市消防本部は、独自に次のような施策を実施している。① PA 連携の積極的な推進（全搬送件数の15%）、②多様な消防業務に対応できる救急救命士の育成、③救急出場における救急救命士の常時2人搭乗体制計画の推進、④市域の二次救急医療施設3病院との意見交換会や講習会への参加、医師会・医療機関の諸企画への幹部職員の参加等である。

消防長は、「消防機関の営業部長」と位置づけ、救急医療における地域と職場の環境作りの先頭に先立つべきである。消防機関と医療機関との連携の基本は密接な人間関係であることを認識し、様々な機会を活用して顔の見える信頼関係を創り相互理解を深めることが最も大切であると考える。

SI -4

傷病者受け入れに関する消防と医療の連携体制 ～大阪府に於ける現状と対策～

大阪大学医学部附属病院　高度救命救急センター特任助教
吉矢　和久

総務省によると平成19年中の全国消防本部における救急自動車による総搬送人員は4,918479人であった。このうち傷病者受け入れ困難が問題となっている重症以上傷病者、救命救急センター等への搬送人員、産科・周産期傷病者、小児傷病者について受け入れ実態調査が行われた。

大阪府の調査結果によると、平成19年中の総搬送人員は448,108人、このうち重症以上傷病者は11,704人（2.6%）であり全国の10.8%に比べ極めて少なかった。これは中等～軽症事例の搬送件数の割合が全国に比べ多い傾向にあることを示している。

大阪府における医療機関への照会回数11回以上の受け入れ困難事例を検討したところ、産科・周産期傷病者は6人と少なくいずれも中等症～軽症であった。小児傷病者においても照会回数11回以上の事例は、重症以上2件、中等症26件、軽症59件とそのほとんどが中等症～軽症であった。救命救急センター等への搬送人員の内訳も中等症が78%を占め、重症以上10%、軽症12%であった。従来問題視されていた産科、小児救急においては中等～軽症の事例で受け入れ困難が発生していた。

大阪市の医療機関受け入れ困難事例の調査によると、全搬送件数204,373件のうち照会回数20回以上の事例は320例存在し、平成18年の3.1倍であった。これらは夜間から深夜早朝にかけて多く発生し、診療科としては内科・脳神経外科・整形外科・外科で全体の92%を占めていた。内容は産科・小児救急よりむしろ、2領域以上にわたる救急疾患（内科と脳神経外科など）、飲酒･薬物･精神疾患、消化管出血などが主であった。

大阪府では救急搬送受け入れ困難な状況を改善するため、①受け入れ困難事例が発生した際には、府下に13施設ある3次救急医療機関に相談、場合によっては救命センターで受け入れる、という方針をとっている。3次医療機関からの後方医療機関を確保する必要はあるが、3次救急医療機関を核とした体制を確立する必要があると思われる。また、②平成20年10月からは救急医療情報システムを一新し、救急告示医療機関にテレビ電話可能なモニター付き端末を設置、現場の救急隊から医療情報端末にアクセス可能なシステムとし運用を開始した。現場の救急隊が変動する救急医療機関情報をオンタイムで入手することが可能であり、病院選定時間の短縮、受け入れ困難事例の減少を期待している。

平成20年度 全国救急隊員シンポジウム運営委員会

委員名簿

委員長	杏林大学医学部教授	島崎　修次
	総務省消防庁救急企画室長	開出　英之
	厚生労働省医政局指導課長	三浦　公嗣 佐藤　敏信 （平成20年7月10日まで）
	全国消防長会事務総長	熊谷　道夫 広瀬　経之 （平成20年8月31日まで）
	札幌市消防局警防部長	前田　　實
	東京消防庁救急部長	野口　英一
	熊本県総務部危機管理・防災消防総室長	坂本　愼一
	熊本市消防局次長	松永　浩一
	財団法人救急振興財団事務局長	豊澤　信章

幹事名簿

幹事長	総務省消防庁救急企画室救急専門官併任課長補佐	溝口　達弘
	総務省消防庁救急企画室救急推進係長	島田　智弘
	厚生労働省医政局指導課課長補佐	中谷祐貴子 佐々木孝治 （平成20年7月10日まで）
	全国消防長会事業部長	小松　直保
	札幌市消防局警防部救急課長	佐々木　靖
	東京消防庁救急部救急指導課長	永井　秀明 桂川　勇次 （平成20年9月30日まで）
	熊本市消防局救急課長	後藤　達広
	財団法人救急振興財団事務局総務部企画調査課長	鎌田　重道

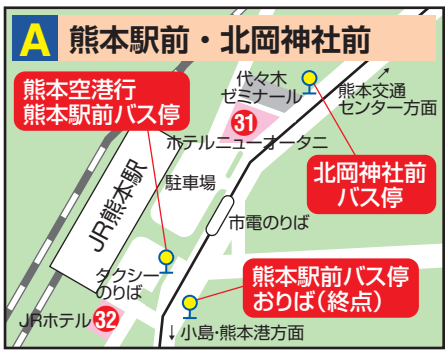
地域別出演者一覧

※表記は50音順です

地区	県　名	名　前	所　属	セッション名	頁
北海道	北海道	佐々木　靖	札幌市消防局	総合討論　パネリスト	7
		庄司　隆広	札幌市消防局警防部	一般発表Ⅵ　O-34	90
		炭谷　貴博	南宗谷消防組合消防本部	一般発表Ⅱ　O-13	49
		髙林　尚也	札幌市消防局	一般発表Ⅶ　O-43	82
		玉川　　進	旭川医科大学	ワークショップ　講師	72
		田村　伸也	札幌市消防局	総合討論　フロアーアドバイザー	7
				札幌市消防局東消防署	45
		二階堂　仁	札幌市消防局	一般発表Ⅲ　O-15	35
		吉口　昌利	斜里地区消防組合消防本部	一般発表Ⅱ　O-09	47
		吉田　寿美	南宗谷消防組合消防本部	ポスターⅢ　P-22	99
東北	岩手	小野寺俊男	奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部	シンポジウムⅡ　シンポジスト	26
		野場　宗則	久慈広域連合消防本部	ポスターⅣ　P-27	102
	宮城	飯田　　修	気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部	一般発表Ⅷ　O-46	93
		小野　　清	仙台市消防局	シンポジウムⅡ　座長	25
		菅野　　武	栗原市立栗原中央病院	シンポジウムⅡ　シンポジスト	28
		金野　　平	栗原市消防本部	シンポジウムⅡ　シンポジスト	26
		関戸　　修	仙台市消防局	ポスターⅡ　P-18	65
		堀籠　謙一	宮城県総務部消防課	シンポジウムⅡ　シンポジスト	27
		山住　　聖	仙台市消防局	ポスターⅢ　P-21	99
		若生　勝吉	仙台市消防局	シンポジウムⅡ　シンポジスト	27
	山形	森野　一真	山形県立中央病院	シンポジウムⅡ　シンポジスト	28
北陸	新潟	小柳　秀雄	新潟市消防局	ポスターⅡ　P-15	63
		豊岡　正則	新潟市消防局	ランチタイムセミナーⅡ　司会	29
	石川	島野　靖広	金沢市消防局	教育講演　司会	71
		田崎　啓二	金沢市消防局	一般発表Ⅷ　O-47	94
		松井　久和	金沢市消防局	ポスターⅠ　P-06	58
関東	群馬	今井　　論	前橋市消防本部	ポスターⅣ　P-29	103
		星野　明三	高崎市等広域消防局	ポスターⅣ　P-25	101
	茨城	永山　　明	笠間市消防本部	ポスターⅠ　P-03	57
	埼玉	大野　裕一	三郷市消防本部	一般発表Ⅱ　O-12	49
		久新雄三郎	三郷市消防本部	一般発表Ⅳ　O-24	52
		清宮　崇文	さいたま市消防局	ポスターⅡ　P-14	63
		小池　雅人	さいたま市消防局	ポスターⅠ　P-05	58
		杉田　裕一	所沢市消防本部	一般発表Ⅶ　O-41	81
		塚田　　孝	さいたま市消防局	パネルディスカッション　パネリスト	44
		野澤　孝之	さいたま市消防局	一般発表Ⅷ　O-50	95
		長谷川和也	さいたま市消防局	ポスターⅡ　P-16	64

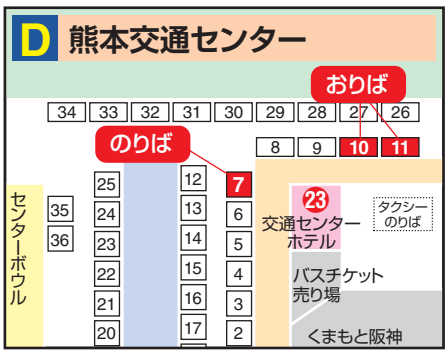
地区	県　名	名　前	所　属	セッション名	頁
関東	埼玉	三浦　紀志	さいたま市消防局	一般発表Ⅲ　O-17	36
		吉川　文隆	草加市消防本部	ポスターⅡ　P-17	64
		吉田　聖寿	所沢市消防本部	一般発表Ⅰ　O-04	32
		渡辺　竜也	さいたま市消防局	ポスターⅣ　P-31	104
	千葉	亀山　俊一	千葉市消防局	ポスターⅠ　司会	55
				総合討論　フロアーアドバイザー	7
		倉並　政章	千葉市消防局	一般発表Ⅵ　O-37	91
		齋藤　雅史	船橋市消防局	一般発表Ⅲ　O-21	38
		鈴木　　等	北総救命会	一般発表Ⅰ　O-05	33
	東京	有賀　　徹	昭和大学	基調講演　講師	5
				総合討論　総合アドバイザー	7
		伊賀崎孝志	救急救命東京研修所	ライブセッションⅠ　指導者	39
		大木島　実	東京消防庁	一般発表Ⅰ　座長	29
				総合討論　フロアーアドバイザー	7
		大西　昌亮	救急救命東京研修所	ライブセッションⅠ　指導者	39
		小野　哲也	東京消防庁	一般発表Ⅵ　O-35	90
		開出　英之	総務省消防庁	ランチタイムセミナーⅠ　講師	20
				シンポジウムⅠ　アドバイザー	21
				総合討論　パネリスト	7
		北川　里佳	東京消防庁	一般発表Ⅴ　O-29	76
		小林　國男	帝京平成大学	パネルディスカッション　アドバイザー	42
		坂本　哲也	帝京大学	教育講演　講師	73
		佐藤富士雄	東京消防庁	ポスターⅢ　P-20	98
		庄司　光国	東京消防庁	一般発表Ⅳ　O-27	54
		白井　泰延	救急救命東京研修所	ライブセッションⅠ　指導者	39
		田中　秀治	国士舘大学大学院	一般発表Ⅱ　助言者	45
		田邉　晴山	日本医科大学（旧厚生労働省）	シンポジウムⅠ　アドバイザー	21
		友野　一辰	東京消防庁	一般発表Ⅴ　O-30	76
		永野　義武	救急救命東京研修所	ポスターⅡ　司会	55
				総合討論　フロアーアドバイザー	7
		成川　憲司	帝京大学	パネルディスカッション パネリスト	43
		西原　健治	東京消防庁	シンポジウムⅠ　座長	21
		野内　隆一	財団法人東京救急協会	一般発表Ⅱ　O-14	50
		橋本雄太郎	杏林大学	ランチタイムセミナーⅡ　講師	30
				総合討論　パネリスト	7
		日髙　一誠	東京消防庁	ポスターⅠ　P-08	59
		道山　　愛	東京消防庁	一般発表Ⅲ　O-18	37
		南　浩一郎	救急救命東京研修所	ライブセッションⅠ　講師	41

シンポジウムシャトルバス運行図&市内ホテル MAP（時刻表は裏表紙をご覧下さい）



↑福岡
第一空港線
北バイパス
東バイパス
57
西日本病院
235
熊本赤十字病院
託麻PA
国体道路
熊本県立大学
熊本市東部
環境工場
第二空港線
阿蘇くまもと空港→
空港行シャトルバス運行ルート
228
東陵高校
益城インター口
バス停
グランメッセ前
バス停
グランメッセ熊本
陸上自衛隊
西部方面総監部
㊡熊本東局
シャトルバス運行ルート
益城熊本空港I.C.
益城町役場
36
さくら病院
28
健軍神社
熊本東署
益城病院
東熊本病院
九州自動車道
235
熊本市動植物園
健軍文化ホール
江津湖
加勢川
↓鹿児島

G 熊本県庁前
熊本県庁
57
東バイパス
熊本県庁前
のりば
熊本市
水道局
コンビニRIC
熊本ファミリー
銀行
熊本空港→
ホリ文具
1
県庁前
グリーンホテル
熊本県庁前おりば


D 熊本交通センター
おりば
34 33 32 31 30 29 28 27 26
のりば
8 9 10 11
25 12 7
35 24 13 6
36 23 14 5
22 15 4
21 16 3
20 17 2
センターボウル
23
交通センター
ホテル
タクシー
のりば
バスチケット
売り場
くまもと阪神

E 通 町 筋
下通り
通町筋電停
通町筋のりば
手取天満宮
9 ホテル日航熊本
手取カトリック教会
肥後銀行
下通り
鶴屋
通町筋おりば
水道町電停
テトリア
国道3号線

F 水前寺公園前
水前寺公園前
電停
熊本城方面
能楽堂
観水苑
ボナペティ
十徳や
水前寺
成趣園
水前寺公園前
のりば
サンホテル
水前寺
水前寺公園前おりば
市立体育館前
電停
健軍方面→

1. 県庁前グリーンホテル
2. リッチフィールド水前寺
3. アネッソマツヤ
4. 水前寺コンフォートホテル
5. KKRホテル熊本
6. アークホテル熊本
7. 熊本ホテルキャッスル
8. 熊本和数寄司館
9. ホテル日航熊本
10. 東横イン熊本水道町
11. ホテルサンルート熊本
12. 水道町グリーンホテル
13. 水道町グリーンホテルアネックス
14. R&Bホテル熊本下通
15. 熊本ワシントンホテルプラザ
16. 熊本グリーンホテル
17. 東横イン熊本新市街
18. コンフォートホテル熊本新市街
19. 熊本東急イン
20. 東横イン熊本辛島公園
21. 三井ガーデンホテル
22. リバーサイドホテル
23. 交通センターホテル
24. ドーミーイン熊本
25. チサンホテル熊本
26. 熊本KBホテル
27. 法華クラブ
28. スーパーホテル熊本City
29. 全日空ホテル熊本ニュースカイ
30. ホテルルートイン熊本駅前
31. ホテルニューオータニ熊本
32. JR九州ホテル熊本
33. 東横イン熊本駅前

シンポジウムシャトルバス（有料）

熊本市内（熊本駅・交通センター）方面 ⟷ グランメッセ

熊本空港 ⟷ グランメッセ

第17回 全国救急隊員シンポジウム シンポジウムシャトルバス運行時刻表 有料

29 (木)

グランメッセ発 → 交通センター → 熊本駅

	グランメッセ	県庁前	水前寺公園	通町筋	交通センター	日銀前	ニュースカイ	熊本駅
台数		230円	230円	330円	350円	370円	400円	420円
1台	14:00	14:14	14:16	14:23	14:30			
1台	14:15	14:29	14:31	14:38	14:45			
1台	14:30	14:44	14:46	14:53	15:00			
1台	14:45	14:59	15:01	15:08	15:15			
1台	15:15	15:29	15:31	15:38	15:45			
1台	15:30	15:44	15:46	15:53	16:00			
15台	17:00	17:14	17:16	17:23	17:30	17:36	17:39	17:42
10台	17:30	17:44	17:46	17:53	18:00	18:06	18:09	18:12
15台	19:00	19:14	19:16	19:23	19:30	19:36	19:39	19:42

30 (金)

交通センター発 → グランメッセ

	交通センター	通町筋	水前寺公園	県庁前	グランメッセ
台数	350円	330円	230円	230円	
2台	7:40	7:47	7:54	7:56	8:10
3台	7:50	7:57	8:04	8:06	8:20
4台	8:00	8:07	8:14	8:16	8:30
1台	8:10	8:17	8:24	8:26	8:40
1台	8:20	8:27	8:34	8:36	8:50
1台	8:30	8:37	8:44	8:46	9:00
1台	8:40	8:47	8:54	8:56	9:10
1台	8:50	8:57	9:04	9:06	9:20
1台	9:00	9:07	9:14	9:16	9:30
2台	9:05	9:12	9:19	9:21	9:35
3台	9:10	9:17	9:24	9:26	9:40
1台	9:15	9:22	9:29	9:31	9:45
5台	9:20	9:27	9:34	9:36	9:50
3台	9:30	9:37	9:44	9:46	9:56
2台	9:40	9:47	9:54	9:56	10:10
2台	9:50	9:57	10:04	10:06	10:20
2台	10:00	10:07	10:14	10:16	10:30

グランメッセ発 → 熊本駅

	グランメッセ	交通センター	熊本駅
台数		350円	420円
2台	10:10	10:45	10:55
2台	11:30	12:05	12:15
15台	13:00	13:35	13:45
5台	14:00	14:35	14:45

グランメッセ発 → 熊本空港

	グランメッセ	空港着
台数		330円
2台	10:10	10:30
2台	11:00	11:20
2台	11:40	12:00
10台	13:00	13:20
5台	14:00	14:20

熊本駅発 → 通町筋 → グランメッセ

	熊本駅	ニュースカイ	日銀前	通町筋	水前寺	県庁前	グランメッセ
台数	440円	400円	370円	330円	230円	230円	
1台	7:45	7:48	7:51	8:00	8:07	8:09	8:20
1台	7:50	7:53	7:56	8:06	8:13	8:15	8:26
1台	8:00	8:03	8:06	8:16	8:23	8:25	8:36
1台	8:05	8:08	8:11	9:20	9:27	9:29	9:40
1台	8:10	8:13	8:16	8:26	8:34	8:36	8:46
1台	8:20	8:23	8:26	8:36	8:44	8:46	8:56
1台	8:30	8:33	8:36	8:46	8:53	8:55	9:05
1台	8:40	8:43	8:46	8:56	9:04	9:06	9:16
1台	8:50	8:53	8:56	9:06	9:12	9:14	9:24
1台	9:00	9:03	9:06	9:16	9:22	9:24	9:34